

校訓	教育目標	教育方針
・畏敬 ・知性 ・奉仕	自然の恩恵に感謝し、国際社会に貢献できる心豊かな生徒を育成する。	①「満足度・充実度・幸福度 No.1」を追求し、生徒の誰もが「入学してよかった」と満足する学校 ②感謝と奉仕の心を育み、学力と教養を身に付け、180通りの夢の実現をサポートできる学校 ③多文化共生を目指す地域社会と協働し、SDGsの普及に向けた取り組みを実践する学校

評価は、A（十分に成果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）・D（成果がなかった）で示す。

評価対象 (担当)	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての反省と改善策	評価	意見
学校経営 (管理職)	日本の中学校卒業生と留学生がともに学び合う「オイスカSDGs教育」を展開し、いわゆる「令和の日本型学校教育」の中で、真の多文化共生を目指す「新未来型国際高等学校」を標榜すべく、理想とする教育活動を実践する。	すべての教育活動が、スクールミッションとどのように関わっているのかを確認し、教職員がその実践のために同じ意識で取り組めるような環境づくりをする。	B	スクールミッション実践のための具体的方策を年度当初に示し、その進捗状況の評価を職員会議等の中で実施した。1月には、その評価に基づき、次年度の具体的方策案を教職員に示し、意見を求めた。真の多文化共生について、「自由と規律」の履き違えがみられ、ハラスメントに対する意識の醸成が喫緊の課題となった。	B	「多文化共生」を目指せば「自由と規律」の相克は必然であるが理想の教育活動に向けて全職員で尽力してほしい。他校にない特徴ある教育活動が新聞等にも記載され頼もしく思う。
教科指導 (教務)	学習における面倒見のよさを徹底し、入学時より2ランクの学力アップを達成することで、学習面での満足度・充実度・幸福度 No.1を目指す。	1年生とグローバルキャリアコース(2・3年)生に通常授業と併せて「一般教養」を開講し基礎学力定着を目指す。進学系コース生には、習熟度別授業、各種補習・講習を展開する。情報運用能力を高めるためのタブレット活用や、SDGs教育を高める本校独自の授業・実習・研修を展開し、生徒の学ぶ意欲や満足度向上に繋げる。	B	基礎学力定着のため教務主導で教材や指導法を示し学習を進め、進学指導は各種講習を進路別にきめ細かく展開した。総合選抜型受験者に対しても教科を越えて小論文等の指導にあてられた。ICT運用能力の向上と合わせて学力向上に繋げる指導法を確立したい。本校教育の根幹である環境保全・国際理解教育については生徒の積極参加の下、実施し海外研修の再開は生徒の学習成果と合わせて満足度向上につながった。	B	ICT運用能力向上の指導、海外研修による環境保全・国際理解教育はオイスカの根幹である。学力向上と合わせて人間力を高め生きる力を身につけてほしい。進学指導においては出願から小論文・面接指導に至るまできめ細かな指導に感謝する。
進路指導 (進路)	進路目標達成に必要な学力・技能を身に付けるサポート体制を整える。	生徒個々の学力や適性、希望をしっかりと把握し進路指導にあたる。また、校内外の各種の進路行事に積極的に参加させることにより情報提供に努めさせる。	B	3年生については、学年部の先生方が積極的に進路指導を行ってくれ、スムーズに進路決定することができた。1・2年生については、外部業者にもお世話になりながら、進路目標決定につながる情報提供ができた。	B	進路指導の適切さが大学進学率や就職率の向上に繋がっていると思う。きめ細かな進学指導に感謝している。
生徒指導 (生徒)	基本的な生活習慣を基に、「元気な挨拶」「時間厳守」「思いやりある言動」を身に付け、満足度・充実度・幸福度 No.1に向けて、面倒見のよい個別対応やサポート体制の構築を目指す。	学校生活の基盤となるHRにおける基本的な生活習慣の向上。校則やマナーを遵守できる生徒の育成と教育相談および保護者との連携。生徒の内面的心情を把握しながら適切な生活指導を心がける。	B	道徳的指導を学期に1回実施した。HR単位で道徳授業を導入し心豊かな人材育成を図る努力をした。生徒指導上の問題に対しては、他部との連携や迅速な対応に欠けるところが反省点としてあげられる。スクールハラスメントに関する理解を深める研修を行い、生徒が安心安全に暮らせる段階的かつ具体的な方針を明確にする必要を感じている。	B	安心・安全な学校運営実現の為、意識を高める必要がある。特にスクールハラスメントについては、研鑽を積み保護者の理解と協力を得ながら撲滅していくよう努力を求める。
部活動指導 (生徒)	顧問の熱意を生徒に伝え、ともに成長できる環境と3年間継続できる運営体制を作る。	専門技術の習得を目指した充実した指導、および生徒が達成感を味わえる場となる指導を図る。「心技体」を重んじた指導に努める。	A	強化指定部においては日々充実した活動を展開し、文化部においても地域との深い関わりの中で活動できた。充実した活動を継続すると共に結果にこだわった成果に今後重点を置きたい。	A	顧問の熱意を強く感じる。報道等で各部の活躍を知ることができた。活動場所の整備も進めてもらいたい。
健康管理 (生徒)	常に緊張感を持ち感染症予防に万全を期す。生徒が主体的に健康になろうとする意識を高める。	健康診断を通して、疾病の早期発見・健康管理に努める。感染症予防対策の徹底をする。不適応状態の早期発見・支援に努める。	A	定期健康診断については、正確・安全に実施できた。受診対象者については、二極分化はしているが、早期受診ができつつある。不適応状態の生徒については教育相談部等と連携し支援体制が確立できた。	A	計画通り一つ一つ丁寧に取り組み、成果があったと思う。引き続き生徒・職員の健康への意識向上を目指してほしいと思う。
寮生指導 (寮務)	寮生活の満足度を高めるために、行事やルールの見直しを継続的に行う。	年間目標を達成させるために室長を中心に振り返りの場を設け意見交換をしていく。居室のリフォームは継続的に実施して行く。	B	規則正しい寮生活を通じて人間的な成長と自治能力を育成できた。3年生卒業後の次期リーダーも順調に育っている。居室のリフォームについても取り掛かる準備はできている。	B	施設等に不満が多いように感じるが集団生活を通じて心の成長や良い思い出になる貴重な場所であると思う。
留学生指導 (留学生)	授業や補習等を活用し日本語の学力を付け、より高い日本語能力資格の取得を目指す。校内での日本人との交流を深める。	夜間に実施する日本語の補習授業を通じJLPT/EJUの対策をし、日本語能力の向上に努める。留学生と教員がよりコミュニケーションをとり、学校生活に馴染めるようサポートし、生徒間交流の懸け橋となる。	A	授業や課外活動において他国間の交流を促すことができた。夜間の日本語学習参加者は減少したが、これは学校の課題学習を希望する生徒が増加したためである。夜間学習の内容の検討とJLPT/EJUの対策方法を再考していく。	A	留学生には地域の祭典に参加してもらい感謝している。母体のオイスカのネットワーク活用が更に望まれる。
広報 (広報)	令和6年度180名入学を達成するための方策を検討・実践する。留学生募集について具体的な方策を検討・実践する。	創立40周年記念をオープンスクール・学校説明会で強くPRしていく。それに伴うTVCMを手掛ける。留学生グループと協力して留学生の募集計画を作成する。	A	オープンスクール・学校説明会では、学校の魅力を効果的に伝えることができた。また、TVCMの企画・制作にも積極的に取り組み、東は掛川地区、西は豊橋・豊川地区の中学校への訪問を2回以上実施できた。よって本校の特色を直接説明し理解を深め、知名度向上に寄与した。留学生の募集においては、留学生指導部と連携をとり計画通り進めることができた。	A	広報活動の広域化と人脈を使った綿密化により生徒募集が順調に進んでいる。ポスターのデザイン・テレビCMなどインパクトがあり知名度向上に寄与している。今後もPR活動を継続してもらいたい。

評価対象 (担当)	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての反省と改善策	評価	意見
企画・研修 (企画研修)	学習指導における「指導と評価の一体化」を意識し、「観点別評価」の確立にむけての研鑽を続ける。生徒参加型授業の手法を構築し、「学び方を学ぶ」学習方法の確立を目指す。	「授業のユニバーサルデザイン化」を図り、全生徒が安心して「学びに向かう力」を養うことができる仕掛けをする。「教育ファシリテーション」の技法を取り入れ「生徒参加型授業」を通し、全生徒が学びの定着・向上を実感させる仕掛けをする。	B	「教育ファシリテーション」について冊子を使いながら、技法の理解に努め、授業改善に取り組む教科担任、学級担任が増えてきた。また、「誰一人残さない」よう、学習意欲、生活意欲を向上させるため、SHR や終礼などでの「語りかけ」の充実を図ってきた。「学び方を学ぶ」学習方法について、「オイスカ版」として、まとめていきたい。	B	理解力・論理的思考能力・交渉力等は社会人として必要なスキルである。それらを磨き育てるためのオイスカ版学習方法の確立を研修部中心に全職員で目指してもらいたい。
防災 (総務)	実践的な防災訓練を実施する。職員・生徒向けのAED講習等を実施する。	4月、9月に全校避難訓練を実施。7月4日に職員・生徒向けのAED講習を実施。	A	年2回の避難訓練を実施できた。7月に職員向けのAED講習を実施できた。実際に使用する機会はなかったが定期的な講習の必要性を実感した。	A	いつ発生するか分からない地震災害に備えるために継続して訓練を実施してもらいたい。
事務 (事務)	School Compliance に基づいた適切な運営を行う。来校者や生徒に親切・丁寧な対応する。	定められた手続きに準拠し、適切な事務が執行されるように事務部を運営すると共に、生徒及び来訪者に親切・丁寧な対応を行う。	A	関係諸機関からの通達を守り、実態調査等滞りなく進めることができた。しかし、今年度に関しては、県から例年はない細かいところまで指摘があり、その都度対応した。生徒及び訪問者へは常に親切・丁寧を心掛け対応できた。	A	日々の事務方の丁寧な対応について感謝する。お客様対応や電話対応など心遣いを感じ、良好だと思われる。
ユネスコスクール (国際交流)	ユネスコスクールとして学校運営・学校教育・学校活動をふさわしいものにする。	審査通過後は、「オイスカSDGs教育」を展開しながら、ユネスコスクールの使命や目的に沿った活動を行う。	A	前年度申請したユネスコスクールは「国内審査通過」という結果であった(8月)。国外審査の準備をしながらキャンディデート校として活動を行う。関係部署と連携を取りながら更なる実績に向けて活動を行っている。	A	国内審査通過は偉業であり、オイスカ国際教育の柱となる取り組みである。次の審査も通過できるように準備を進めてもらいたい。

課題・検討事項・学校運営に関するご意見等

<ul style="list-style-type: none"> ・高校もしくは専門学校において介護・看護の学科設置を検討してもらいたい。 ・寮生については充実した寮生活を通じて人間的な繋がりの中で大きく成長してもらいたい。 ・部活動の更なる活性化のために施設の整備を期待したい。
